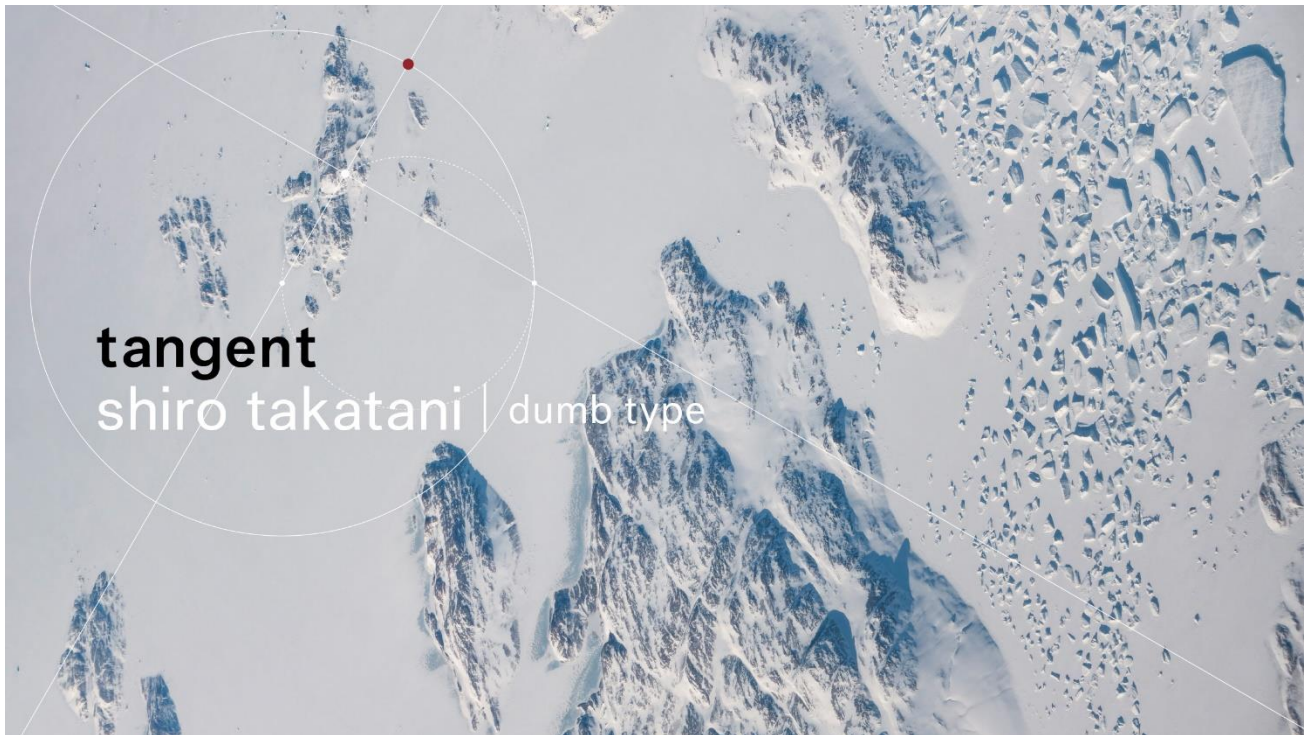


2023(令和5)年12月21日 報道発表資料
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



ロームシアター京都のレパートリー作品として
高谷史郎(ダムタイプ)による8年ぶりの新作パフォーマンスを新製作！

ロームシアター京都 レパートリーの創造
高谷史郎(ダムタイプ) 『tangent(タンジェント)』

2024年2月9日(金)、10日(土)、11日(日)、12日(月・休)
ロームシアター京都 サウスホール

総合ディレクション: 高谷史郎
プロジェクト・メンバー: 濱哲史、古舘健、白石晃一、細井美裕、南塚也
照明: 吉本有輝子
舞台監督: 大鹿展明
マネジメント: 高谷桜子
企画製作: ロームシアター京都
共同製作: Kanuti Gildi SAAL、欧州文化首都タルトゥ 2024(エストニア)

[本リリース発信元]
ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当: 加藤(陸)、儀三武、山形
電話: 075-771-6051(10:00~17:00) FAX: 075-746-3366 E-mail: press@rohmtheatrekkyoto.jp

■本企画趣旨

ロームシアター京都では、「レパトリーの創造」シリーズ第7作目として2024年2月9日(金)～12日(月・休)に高谷史郎(ダムタイプ) 新作パフォーマンス『tangent(タンジェント)』を製作・上演いたします。ダムタイプのコアメンバーとして活躍し、パフォーマンスシーンに新たな可能性を開拓したメディア・アーティスト高谷史郎が、満を持しての新作を発表します。

高谷史郎個人名義でのパフォーマンスアート作品としては、『ST/LL』(2015年初演)以来、8年ぶりの待望の新作となります。

■本企画のポイント

高谷史郎個人名義では8年ぶりの新作パフォーマンスを新製作

本作『tangent(タンジェント)』は、高谷史郎個人名義によるパフォーマンス作品の第4作目となります。写真を介した実在する対象にまつわる記憶、光と色彩、人の認識を超えた「時間」と「空間」についての考察など、一貫してアートとテクノロジーの狭間で、物理的な力学や人間の感覚の臨界を探る試みを続けてきました。

今回ロームシアター京都の委嘱により新製作する『tangent(タンジェント)』は、8年ぶり・待望の新作発表となり、ロームシアター京都が劇場レパトリー作品をプロデュースする「レパトリーの創造」の一環として再演を見据えたプロダクション*となります。

芸術と科学、そしてそれらとテクノロジーの関係をベースとしながら、美術と舞台芸術のボーダーを軽やかに超えた、静謐で美しくかつドラマティックな舞台芸術作品が誕生します。

*2024年6月にエストニアでの巡演決定!



『CHROMA』 Photo: Kazuo Fukunaga

知覚の「接線」=「tangent」の境目をなぞる実験

テクノロジーを介して、普段私たちの見ている日常的な世界の新たな位相を切り開いてきた高谷。今作では、初等幾何学における「接線」=英語で「tangent」をキーコンセプトに、物質や空間、音や光、色彩がそれとして知覚されるうえでの境界の在り方に着目します。「太陽」「水」といった生命に欠かせない自然物をモチーフに、マクロ/ミクロのスケールを行き来しながら身体感覚と世界は互いにどのように感知・共有されるのかという問いに向き合います。そしてその境目をライブで体験することが、一般論として語られがちな社会規範・価値観への転換を促し、固定観念の輪郭や境界を曖昧にすることも今作は企図しています。

独自の集団創作スタイル

本プロジェクトは2021年度にスタートし、ダムタイプの作品と同じく、参加アーティストたちが各自のアイデアを出し合いながら一つの作品にまとめ上げていくスタイルで創作されています。

今作においては、これまでの高谷/ダムタイプ作品に多数参加してきた映像・音響プログラマー古

館健、濱哲史、照明デザイナーの吉本有輝子に加えて、金属造形等の技術を用いたアート作品を手掛ける美術家・白石晃一、マルチチャンネル音響を用いたサウンド・インスタレーション等で注目される気鋭のサウンドアーティスト・細井美裕をプロジェクト・メンバーに迎え、音や光を生み出す新たなシステムやフォーマットについて試行錯誤を続けています。

【高谷史郎 これまでの舞台作品】

『明るい部屋』(初演:2008年 ドイツ世界演劇祭)

『CHROMA』(初演:2012年 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)

『ST/LL』(初演:2015年 ル・ヴォルカン国立舞台、フランス)



『明るい部屋』 Photo: Kazuo Fukunaga



『ST/LL』 Photo: Yoshikazu Inoue

■関連テキスト

2021年にクリエイションに際して行った高谷史郎インタビューをWEBマガジン「Spin-Off」に掲載しています。インタビュアー:田坂博子(東京都写真美術館学芸員)

○高谷史郎ロングインタビュー[前編] [こちら](#)

○高谷史郎ロングインタビュー[後編] [こちら](#)

■レパトリーの創造とは？

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品製作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて末永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトルク、制作者等の専門家人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化を作ることを目指します。

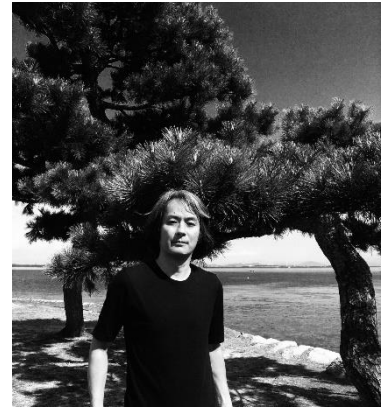
これまでの「レパトリーの創造」

- ・木ノ下歌舞伎「心中天の網島—2017リクリエーション版—」(2017年10月)
- ・木ノ下歌舞伎「糸井版 摂州合邦辻」(初演2019年2月、再演2020年10-11月)
- ・ジゼル・ヴィエンヌ エティエンヌ・ビドー=レイ『ショールームダミーズ #4』(初演2020年2月、再演2021年11月)
- ・ロームシアター京都開館5周年記念事業 松田正隆作・演出「シーサイドタウン」(初演2021年1月)
- ・市原佐都子/Q「妖精の問題 デラックス」(初演2022年1月)
- ・松田正隆 海辺の町 二部作「文化センターの危機」〈新作〉/「シーサイドタウン」〈再演〉(「文化センターの危機」初演2022年2月、「シーサイドタウン」初演2021年1月、再演2022年2月)

■プロフィール

高谷 史郎(Shiro Takatani)

1984 年から「ダムタイプ」の活動に参加。様々なメディアを用いたパフォーマンスやインスタレーション作品の制作に携わり、世界各地の劇場や美術館で公演/展示を行う。1998 年からダムタイプの活動と並行して個人の制作活動を開始。中谷 芙二子、坂本 龍一、野村 萬斎、十五代 樂吉左衛門・樂直入らとのコラボレーション作品も多数。2021 年、坂本 龍一 + 高谷 史郎『TIME』をオランダ・フェスティバルで世界初演。2024 年春、東京・新国立劇場とロームシアター京都にて『TIME』上演予定。



ダムタイプ dumb type とは

1984 年に結成。ヴィジュアル・アート、映像、コンピューター・プログラミング、音楽、ダンスなど、様々な分野の複数のアーティストによって構成される。京都を活動の拠点とし、プロジェクト毎に参加メンバーが変化して制作される作品は、既成のジャンルにとらわれない、あらゆる表現の形態を横断するマルチメディア・アートとして国内外で発表されている。2018 年にポンピドゥー・センター・メッス(フランス)で個展「DUMB TYPE: ACTIONS + REFLEXIONS」を開催、2019 年には新作やアーカイブを加えてバージョンアップした展覧会が東京都現代美術館にて開催された。2020 年 3 月に世界初演が計画されていたロームシアター京都での新作パフォーマンス『2020』は、コロナの影響で上演中止となり無観客で撮影が行われ、同年 10 月にロームシアター京都サウスホール(撮影した同じ場所)でその記録映像の上映が行われ、オンラインでも配信された。2022 年には、第 59 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展の日本館出品作家に選出、坂本 龍一を新メンバーに迎えて新作インスタレーション《2022》を展示。2023 年には東京のアーティゾン美術館でヴェネチア・ビエンナーレ帰国展《2022: remap》が開催された。

ダムタイプ公式 WEB サイト: <http://dumbtype.com/>

濱 哲史(Satoshi Hama)

1985 年生まれ。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー[IAMAS]、多摩美術大学情報デザイン学科を卒業。コンピュータプログラミングを駆使したサウンドや映像を制作。

坂本 龍一、ダムタイプ、池田 亮司など多数のアーティストのインスタレーションやパフォーマンスの制作に参加する。

Web サイト <http://satoshihama.com>

古館 健(Ken Furudate)

1981 年生まれ。京都在住。アーティスト/エンジニア/ミュージシャン。サインウェーブ、パルス、ドット、直線などプリミティブな素材の持つ特性を重ね合わせることで、複雑な現象を導き出すような AV パフォーマンス、インスタレーションなどを制作。2002 年より観客参加型のサウンド・アート・プロジェクト「The SINE WAVE ORCHESTRA」を他 3 人のメンバーとともに主催。2014 年よりアーティストコレクティブ「ダムタイプ」に参加。ダムタイプとして、59 回ベニスビエンナーレ、日本館にて作品「2022」を発表(2022)。2015 年より西陣織の織元である細尾とコラボレーションを開始、2019 年にプロジェクト「Quasicrystal」を立ち上げ、ジェネラティブアートの手法を用いた新しい西陣織を作り上げた。他、エンジニアとして様々な作家の制作に参加している。2021 年より DJ としても活動。

<http://ekran.jp/kf>

白石晃一(Koichi Shiraishi)

1980年生まれ。金属造形やデジタルファブリケーションの技術を使い機械やコンピューターを組み込んだ彫刻を制作、自身でパフォーマンスを行ったり、観客参加型のイベントを仕掛け、公共空間を中心に発表を行う。ファブラボ北加賀屋(2013～)を共同設立。主なグループ展に「平成美術：うたかたと瓦礫デブリ 1989-2019」(2021)がある。

細井美裕(Miyu Hosoi)

1993年生まれ。慶應義塾大学卒業。マルチチャンネル音響をもちいたサウンドインスタレーションや屋外インスタレーション、舞台公演、自身の声の多重録音を特徴とした作品制作を行う。これまでにNTTインターコミュニケーション・センター(ICC)無響室、山口情報芸術センター(YCAM)、東京芸術劇場コンサートホール、愛知県芸術劇場、日本科学未来館、国際音響学会 AES、羽田空港などで作品を発表。

オフィシャルサイト：<https://miyuhosoi.com/>

南 琢也(Takuya Minami)

グラフィックデザイナー／アーティスト。今作では広報グラフィックデザインを担当。1980年代後期より様々な名義でアーティスト・コレクティブによる表現活動を行う。現在は Softpad メンバーとして、インスタレーション、パフォーマンス、サウンド、デザイン分野などを横断しながら、それぞれのメディアの境界線と接点を探る。音・文字・グラフィックの関係性における研究を行う藤本由紀夫監修のプロジェクト「phono/graph」メンバー。池田亮司、坂本龍一、高谷史郎、DUMB TYPE のグラフィックデザインに携わるなど、アート・音楽に関連するデザインワークを行う。高谷史郎パフォーマンス作品「明るい部屋」「CHROMA」「ST/LL」にプロジェクトメンバーとして参加。

■公演情報

レパートリーの創造

高谷史郎(ダムタイプ) 新作パフォーマンス『tangent(タンジェント)』

日時：2024年2月9日(金)19:00／10日(土)19:00／

11日(日)14:00★／12日(月・休)14:00

★託児サービスあり。詳細・お申込みはロームシアター京都 WEB サイトにてご確認ください。

会場：サウスホール

総合ディレクション：高谷史郎

プロジェクト・メンバー：濱哲史、古館健、白石晃一、細井美裕、南琢也

照明：吉本有輝子

舞台監督：大鹿展明

マネジメント：高谷桜子

制作：ダムタイプオフィス／ロームシアター京都

企画製作：ロームシアター京都

主催：ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市

共同製作：Kanuti Gildi SAAL、欧州文化首都タルトウ 2024(エストニア)

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

■チケット情報 [好評発売中]

全席指定

一般(1階席)5,000円、一般(2階席)4,000円、ユース(25歳以下)2,500円、
18歳以下1,000円

※未就学児入場不可

※18歳以下およびユース(25歳以下)チケットは、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書(学生証、免許証等)をご提示ください。

※演出の都合上、開演後はご予約のお席にご案内できない場合がございます。

チケット取扱:

・オンラインチケット 24時間購入可 ※要事前登録(無料)

<https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/>

・ロームシアター京都チケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-746-3201(10:00~17:00、年中無休 ※臨時休館日等により変更の場合あり)]

・京都コンサートホールチケットカウンター

[窓口・電話 TEL.075-711-3231(10:00~17:00、第1・3月曜休 ※祝日の場合は翌日)]

・チケットぴあ <http://t.pia.jp> Pコード 522-198

・イープラス <https://eplus.jp/tangent/>

お問合せ:ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201

公演 WEB ページ:<https://rohmtheatrekkyoto.jp/event/103415/>

■エストニア公演

2024年6月4日(火)~5日(水) / ヴァネムイネ劇場

Kanuti Gildi SAAL、欧州文化首都タルトゥ 2024(エストニア)